

# 教えて! 市立病院



【今月のドクター】  
小児科長  
笹 真一 医師  
ささ しんいち

小児の発熱の原因のほとんどはいわゆる風邪です。ウイルス性の上気道炎であれば自然経過で良くなるので、水分を摂って安静にして自宅療養をします。

小児科外来や救急外来で診察を受けた際に、「様子を見てください」と言われることがあると思います。しかし、その真意が十分に理解され

〈第 130 回〉

## 「様子を見る」の真意とは

■問合せ / 市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

ていないケースが時々あります。その真意とは以下のとおりです。

- ①現時点では重症感はなく、上気道炎など軽症であると思われる。
- ②現時点での方針は自宅療養で経過観察である。
- ③ウイルスに対する特効薬はなく、自然治癒力で治るのを待つ。
- ④経過をみて状態が悪化するようなら再診が必要である。
- ⑤あくまで現時点での見立てであり、未来を保証するものではない。

このように、「経過観察」は治療方針の1つです。また、「様子を見る」には、悪化した場合には再診す

るところまでが含まれます。診察した医師は患者の未来まで分かるわけではありません。非常にまれですが、風邪だと思ったら細菌性髄膜炎や急性心筋炎のような重症疾患だったという場合もあり得ます。初診では診断は確定しないので経過をみる必要があるのです。その経過をみるのは患者の保護者の役割です。外来を受診して診察だけで帰されると、「何もしてもらえなかった」と捉えてしまう人がいます。そういう人は上記の真意を理解していないと思われるかもしれません。適切な診療を行うには、医療者だけではなく保護者の役割も必要なのです。